

会 議 録

会議名称	令和4年度第3回加古川市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和4年11月10日（木）午前9時30分から午前11時45分まで
開催場所	加古川市役所新館10階 大会議室
出席者	<p><委員></p> <p>藤原健史会長、中井玲子副会長、花田眞理子委員（WEB）、岡本立身委員、岡田弘子委員、津田貞裕委員、丸山玲子委員、加藤朋子委員</p> <p>（欠席）藤原武彦委員、金子博子委員</p> <p><事務局></p> <p>竹中環境部長、阿部環境部事業担当部長、新濱環境部次長、福山環境政策課長、藤本環境政策課副課長、小山環境政策課ごみ減量推進担当副課長、高橋環境政策課循環型社会推進係主査、高橋環境政策課環境政策係主事、瀧石環境保全課長、栗栖環境保全課副課長、西澤環境第1課長、菅野環境第1課副課長、桑山環境第2課長、岸本環境第2課副課長、松本環境第2課尾上処理工場担当副課長、小山環境第2課浄化槽整備推進担当係長、増田環境第2課浄化槽整備推進担当、生田環境施設課長、岡田環境施設課副課長、山本下水道課長、岩田下水道課副課長</p>
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 事</p> <p>（1）生活排水処理基本計画（素案）について</p> <p>（2）ごみ処理基本計画（素案）について</p> <p>（3）ごみ処理の基本理念（案）について</p>
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次一般廃棄物処理基本計画（案）（事前送付） ・資料①「第4次一般廃棄物処理基本計画（素案）に対する意見及び見解」 ・資料②「第4次一般廃棄物処理基本計画の基本理念（案）について」
傍聴者の数	2人

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
	<p>1 開 会 会長あいさつ</p> <p>2 議 事 (1) 生活排水処理基本計画（素案）について</p> <p>(事務局説明)</p>
(委員)	加古川市の人口予測が、1の位までとなっているのはどうしてか。
(事務局)	人口予測については、第2期加古川人口ビジョンの目標人口を利用して推計しているが、各市の公表の仕方に合わせて、1の位までとしている。
(委員)	推計値の簡単な説明を資料に加えることはできるか。
(事務局)	ご指摘のとおり、推計値の推計方法について、資料編に加える方向で検討する。
(委員)	汚泥再生処理センターの整備ということだが、し尿や浄化槽汚泥をどのように利用するのか。
(事務局)	<p>尾上処理工場の再整備については昨年度、プロポーザル方式により整備業者を選定しているが、国の循環型社会形成推進交付金の交付要件にもなっている、再資源化を条件として要求水準書に記載している。</p> <p>し尿や浄化槽汚泥の中に多量のリンが含まれているので、これを回収し肥料化し、農業者に還元していくという循環を考えている。</p> <p>神戸市の下水道局についても、今回の事業者が再整備しているが、回収したリンを肥料として地元の神戸の農業者に販売することを行っている。加古川市についても、同じような形で再整備することにより、循環型社会を形成していく。</p>
(委員)	<p>神戸市にはメタン発酵施設がある。</p> <p>し尿や浄化槽汚泥からどのように回収するのか。</p>
(事務局)	リン回収については、いろいろな方式があるが、今回については、汚泥脱水機からの汚水を利用し薬液等を加えて結晶化して回収し、乾燥させるという形になっている。

(委員)	リンを回収して肥料として戻すということか。
(事務局)	<p>結晶自体は乾燥しているので、多少はにおいが出るが、そのまま肥料会社に持って行き肥料にするという想定になっている。</p> <p>また、詳細は決まっていないが、脱水汚泥は岡山県の事業者の方で再資源化を予定している。</p>
(委員)	それも、有効利用するという考えということか。
(事務局)	<p>補足説明として、循環型社会形成推進交付金で認められているリン回収の方法が2つあり、汚水を浄化した後に回収する方法もあるが、今回は汚水を処理しないで回収するという単純な方式を採用している。</p>
(委員)	<p>公共下水道への接続だが、経済的な個人負担を伴うことが要因で未接続率が上がってきているように思うが、その見込みというのはどうなっているのか。</p>
(事務局)	<p>公共下水道への接続だが、浄化槽や汲み取りを使っている家庭に、毎月、接続をお願いする形で、PR活動を行っている。</p> <p>PR活動の成果について数字は出ないが、年に1,200件ぐらいの排確申請（排水設備の計画確認申請）が出てきているので、成果が出ていると考えている。</p>
(委員)	<p>公共下水道が整備されているのに、まだ浄化槽を使っているということは、そこにすごく無駄が生じることになるので、よろしく願います。</p> <p>実際に接続する時の費用に補助はあるか。</p>
(事務局)	<p>公共下水道の供用開始から3年以内で、合併処理浄化槽からは2万5千円、汲み取りからは5万円という形の補助がある。</p>
(委員)	<p>了解した。そういう補助があっても実際に個人が負担する費用も掛かるものだが、進めていかないといけないということである。</p>
(委員)	<p>また人口の話だが、実際に接続している状態で、もう住む人がいなくなって空き家になってしまったら、使っていないことになるが、こういう場合は何か修正等されているのか。</p>

<p>(事務局)</p>	<p>空き家というのは統計上わからないので、まず下水道に接続可能な人口というのがあり、これが下水道普及人口になるが、この人口は減少している。接続人口は上下水道局の台帳でわかるので、この数字で推計している。実際の水洗化人口は接続していても、空き家になっているかどうかまでは推計できない。これは農業集落排水でも同じである。全部の台帳が住民基本台帳と繋がっていれば可能だが、人が住んでいるかどうかまでは推計上考慮できなかった。実際に家があっても住んでいるかどうかは外から見てわからないので、台帳と実態に差があると思われる。</p>
<p>(委員)</p>	<p>空き家の問題は、福祉の問題として最近、取り上げられているが、その家に人が住まなくなり、そのあとの継承がうまくいかずに、スプロール現象と言うが、そういうところは非常に重要である。福祉の計画とか密接にデータのやり取りをしないと難しい問題である。</p>
<p>(委員)</p>	<p>今後、人口減少で空き家になる所が増えてくれば、未接続の割合が増加するのではないかと思う。 災害対策というようなことが出てきているが、加古川市の下水処理場などで小水力発電の施設がどれくらいあるのか、わかれば教えていただきたい。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>加古川市内では、まだ設置はない。</p>
<p>(委員)</p>	<p>浄水場、下水処理場という所は、ずっと動いてきて欲しいインフラだと思う。その際は、対策という面からも常に水が流れているという条件だということもあるので、今後の災害対策という点で、そういう設備の設置ということも合わせて考えてもらえると良いと思う。少し内容とずれるので、意見としてお聞きとどめいただきたい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>災害廃棄物対策について、避難所の簡易トイレ等、計画の中で改めて確認しておく必要があると思う。処理が止まってしまったら、最近は非常電源とか対応を確認しておいた方が良いと思う。</p> <p>(2) ごみ処理基本計画(素案)について (事務局説明)</p>
<p>(委員)</p>	<p>P71 『3.重点施策3 食品ロスの削減に向けた具体的施策』の『「てまえどり運動」の展開』について、実際に店に並べられている状態を見ると、せっかく綺麗に並べられていても、食パンなどは手前ではなく後ろから取られて、ひっく</p>

<p>(事務局)</p>	<p>り返ったりしている。2人家族なら5枚切りの食パンを消費するのに3～4日もかかる。消費者マインドとして、取りやすい方が良いので前を取る、逆に何日も持たせたいので後ろのものを取るといったことが考えられる。市民の生活などを考えて、周知、PRが必要と考える。</p> <p>ご指摘のように、確かに4人家族なら食パン5～6枚切りが1～2日で消費できるが、1人暮らしだと3～4日かかる。おいしく家で食べられるなら、奥から取る人がいてもいいと考えており、「賞味期限内に家族で食べきれるように手前から取ってね」といった優しい表現を考えている。</p> <p>現在、包括連携協定しているセブン・イレブン＝ジャパンと「てまえどり」について協議しており、今月から市内のセブン・イレブンで「てまえどり」を促すレールポップのサンプルを実験的に使ってもらおうこととしている。このレールポップは、来年以降市内のスーパーで展開させていきたい。</p> <p>今年の流行語大賞にも「てまえどり」が選ばれているが、自社の売り上げを目的にするのではなく、食品ロスに貢献するために手前取りを前面に出したいという店の意向もあり、市が推奨している方がありがたいと聞いている。表現については、先ほどの意見も留意しながら、レールポップ、ポスター、のぼりなどでPRを進めていきたい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>P54『基本方針3 ライフスタイルの見直しと協働体制の確立』の『【エシカル消費とは】』の説明が、具体的に何かピンとこない。どういう材料を使用し、どういう作り方をしているか、農林水産物ならどういう採り方をしているかとかを考えると「意識改革」という視点でまとめた方が分かりやすい。サステナブルファッションを例にすると、購入するタイミングにポイントを置いて、私もこれならできると思ってもらえるようにする。その視点にすると、3Rと食品ロスは分ける方が良い。</p> <p>『②市民・事業者・行政による協働』は、一般的なことしか書かれていない。食品ロス、フードドライブなど色々と協働で行うということを具体的に書いた方が分かりやすい。</p> <p>P64『【コラム】ナッジを利用した取り組みについて』だが、ここに書かれていることは、市が広報、政策をする時に「ナッジを利用します」ということで、市民、事業者がどうこうするという話ではない。このコラムをP.68の具体的施策の箇所に持ってきて、加古川市はナッジを利用してこんなことをしているとした方が良い。</p> <p>食品ロスは何回も出てくるが、P54の基本方針など肝心な所がない。『①市民一人ひとりの意識改革』にしっかりと入れておかないといけない。</p> <p>『ライフスタイルの見直し』の中での購入となると、買う時に何を選ぶかといった購入時の意識改革になる。「長く」「大切に」などといった使い方を進め</p>

	<p>るようにしたら良いのではないか。</p>
(委員)	<p>ごみとして出す前の市民一人ひとりの意識改革が必要として、そこに集中した方がよい。</p>
(委員)	<p>P54『ライフスタイルの見直し』を基本方針としているが、ファッション以外は分かりにくい。ライフスタイルを見直すということは、暮らし方を変えることになるが、暮らし方、生活の仕方を変えることを意識し行動してもらわないといけない。しかし、意識は持っていても行動に結びつかない人も多い。ナッジのコラムは移動した方がいいのではないか。</p>
(委員)	<p>『ライフスタイルの見直し』については、指摘のような構想でまとめてはどうか。</p> <p>また、ナッジについては、本文中に書かれていない。</p>
(事務局)	<p>ナッジについては、ご指摘のようにいきなり出てくるので、レイアウトを変更する。</p>
(委員)	<p>SDGs を目指した計画にするなら、SDGs の説明は基本理念を示す時に配置するなどこの案より前に持ってくる方が良い。</p> <p>『ライフスタイルの見直し』の『①市民一人ひとりの意識改革』は、消費の話とごみの分別やリサイクルの話は違う。3Rで言うと、エシカル消費、サステナブルファッションは買う前の意識の話でリデュースとなるが、リユース・リサイクルは買った後の話となり、3R全部をここに入れると処理の話になる。リユースは、買う前の選択肢にもなるが、ここでは消費の部分とそうでない部分を分けて書く方がよい。食品ロスについても、要らないものを買わないという側面もあれば、きちんと食べきるという側面もある。項を分けるか、全部まとめるか『①市民一人ひとりの意識改革』では消費に重点を置いた説明にしているので、3Rの記述については整理が必要と考える。</p> <p>『②市民・事業者・行政による協働』について、一般的な記述に留まっているとの指摘があったが、後に具体的な記述をするなら、基本方針なので、詳細にせずシンプルでも良い。</p>
(事務局)	<p>花田委員から P.54『①市民一人ひとりの意識改革』についてご指摘頂いた点を確認したいが、生産者と販売者、消費者という視点で考えた時に、それぞれのエシカル消費という考え方が異なってくるということで、対象にしているのが市民であった場合、消費者として生産者などの表示されている情報を判断し、必要なものを選択するといったことがエシカル消費につながるという考え</p>

	<p>方で提示するということが可能だということ。サステナブルファッションは、オーガニックコットンの製品などの商品を確認し選択する、そういった視点で意識改革をするという記入の仕方にすれば、問題はないという解釈をしたが正しいか。</p>
(委員)	<p>その通り。エンカル消費は、ともすると遠く堅苦しい話と捉えられがちだが、目の前にあるものだけでなく、その物がどういう風に作られて、また使い終わった後どうなるかを考えて判断し購入をする賢い市民になって欲しいというところが伝わると良いと思う。</p>
(委員)	<p>P.54『【エンカル消費とは】』は、もう少し分かりやすい表現を消費者庁の説明などから探すように。</p> <p>P.59 の他、色々な所に CO2 排出量があるが、「廃棄物処理に関わるもの」を加え、CO2 の発生源を明確にする方がよい。</p> <p>P.68～『具体的施策』は項目が分かりやすくなるように下線か字体を変えるなどが必要。</p> <p>P.58『事業系燃やすごみの削減』は直線でないが、どのように予測したのか。また、令和3年度実績の21,020トンに対して翌年の目標値がこれより高いのはどういうことか分からないが。</p>
(事務局)	<p>令和2、3年度はコロナの影響で、事業系の廃棄物が減っていることが想像されるため、直近5か年の平均を将来予測のスタートにしている。10年間の予測については、新規施策の導入予定がないことから横ばいとしているが、1人1日当たりの原単位を出したうえで算出しているため、事業系としては似つかわしくないかもしれないが、人口減に沿うようにトン数（排出量）としては減少傾向となっている。10年後の目標としては、原単位を2%削減する計算を行っている。</p>
(委員)	<p>コロナ禍で令和3年度は従来より少なかったため、令和4年度の目標値が前年より高くなっているのであれば、コロナ禍前の令和2年度以前の実績も示さないと何もやらないのかと思われる。</p> <p>事業系の排出予測は人口に比例させるより、生産額等に対応させた推計が相応しいが検討したのか。</p>
(事務局)	<p>参考だが、昨年度に新クリーンセンター解体の計画を策定する際に平成28年度からの5年間のデータを基に作成しようとしたが、市内の事業所数は平成28年度から減少傾向にあり、事業所当たり事業系ごみ量（t/事業所）の場合でも、事業所減少数が大きいいため、自然減となる。この計画で</p>

	<p>は、平成28年度事業所数をマックスにして、同時に過去5年間の事業所排出量を分子において減率を推測した結果、1%か2%減となった。</p>
(委員)	<p>その説明なら、事業所数に対する排出量の原単位からの算出になるが、この計画案では人口に対する事業系排出量ということになる。事業所の排出量予測となると、産業、事業所数、従業員数などを基にする方が相応しい。人口でも過去のデータが相関しているのであればそれでも良いが、他市町から加古川市に来て、店などの事業所を利用する人もたくさんいる。完全な相関関係にはなりにくいので、事業所や従業員数の方が一般的に使われている。</p>
(事務局)	<p>パブリックコメントまでには時間的に厳しいが、事業系の排出量については再度検証し、最終案の時にはしっかりしたものを示したいと思う。</p>
(委員)	<p>P.66『【主な食品ロスの原因と対策】』について、当日資料②の事業所の中の「発生」を「発注」に修正するとあるが、家庭については「追記は控えます。」とあり矛盾するのではないか。</p> <p>家庭の「過剰除去」の「過度な健康志向」の中で「残留農薬のリスクを避けることは大事ですが、実はそんなに怖がらなくてもいいかもしれません」というのは「残留農薬のことは考えなくていいですよ」という様に捉えられるので非常に危険な表現である。環境省の資料で修正できないのなら、削除等の検討をした方が良いのではないか。</p>
(事務局)	<p>矛盾の指摘については、事業所の方は転記ミスのため、正しい「発注」に修正する。</p> <p>P.66については、エシカル消費やサステナブルファッションほどに耳馴染みがない言葉でもないため、あえて残す必要も無いとも考えるので、削除を含めて検討する。</p>
(委員)	<p>P.64【SDGs】の説明について、あえて「先進国」と入れなくてもよいのでは。</p> <p>食品ロスの問題は、加古川市だけでなく日本という国の食品バランスが輸入7割と悪い。そういう状態なのに毎日茶碗1杯分の食品を捨てている状況である。こういうことなら気をつけてできるといった身近な情報を合わせてエシカル消費のところでも伝えていく。また、野菜の90%は水分であり、この状態だごみ処理場の無駄なエネルギーの消費につながる。</p> <p>表の字が相対的に小さい。読みやすいように文字を大きくすること。</p>
(委員)	<p>難しいところは削除するなどして、見えやすく分かりやすいようにすること。</p>

<p><事務局説明 ></p>	<p>(3) ごみ処理の基本理念(案)について 資料 当日資料②ごみ処理の基本理念(案)について、事務局から説明。候補案2つを提示。</p> <p>ひと・もの・自然 めぐり、はぐくみ、つなげるまち ～3R 目指す先に 未来の環境～ ものが環り しぜんを育み ひとで繋がる 加古川市 ～循環型社会の構築で未来の環境を～</p>
<p>(委員)</p>	<p>二つ候補があるが、どちらが良いと思うか。</p>
<p>(委員)</p>	<p>上の「ひと・もの・自然」が分かりやすいので良いと思う。 副題は組み合わせとしては下が良い。</p>
<p>(委員)</p>	<p>下の方が理解がしやすくて良い。副題も下が良い。</p>
<p>(委員)</p>	<p>市民一人ひとりに伝えることが大事なので、なるべくわかりやすい言葉の方が良い。</p>
<p>(委員)</p>	<p>下が良い。上は「ひと・もの・自然～」と長い。下は言葉は難しいがパッと見てわかる。</p>
<p>(委員)</p>	<p>下が良い。上は目には優しいが、もうひとつ分かりにくい。 3Rが先に来てしまっているが、あくまで手段である3Rが前に出ていては、目についてしまう。 下ははっきりと分かる形で良い。一番目指しているところが「循環型社会」なので、言葉は難しいが、目指すところ、これによって将来の環境が担保できる訳ではないけれど、良い方向へ持って行けるものだと捉えることができる。</p>
<p>(委員)</p>	<p>分かりやすい下の方が良い。副題はちょっと硬いが、どう修正したらよいかパッと出てこない。先ほど3Rは手段だという意見があったが、正にその通りだと思う。</p>
<p>(委員)</p>	<p>ものが環り しぜんを育み ひとで繋がる 加古川市 ～循環型社会の構築で未来の環境を～ こちらの方をごみ処理の基本理念にさせていただけたらと思う。</p>
<p>(委員)</p>	<p>育み、繋がるはルビを振った方が良い。できれば副題もスペースがあるなら</p>

	<p>振った方が良い。</p>
(委員)	<p>循環型社会、構築、スペースに余裕があれば、全てにルビを振る方が良い。 理念は表紙に入れるのか。</p>
(事務局)	<p>表紙には入れない。</p>
(事務局)	<p>3 その他 今後のスケジュールを説明。</p>